

主の回復の中心点における真の召会

聖書：I コリント1:2-9, 12:12, 24, 10:17

- I. コリント人への第一の手紙がわたしたちに明らかにしているのは、主の回復の中心点（すなわち、神のエコノミーの中心点）における真の召会です。パウロは、コリント人への彼の書簡の冒頭において、神の召会の美しい、すばらしい、卓越した描写を提示しています——1:2-9：
- A. 「神の召会」——この召会は、神によって所有されているだけでなく、神をその性質また本質としています。それは神聖で、普遍的で、宇宙的で、永遠のものです——2節a。
 - B. 「コリントに在る……召会」——これは一つの都市にある召会であり、特定の地方にとどまっており、事務上の行政のためにその地方をその地位、立場、行政区域とします。それは物質的であり、特定のものであり、地方的であり、暫時的なものです——2節b。
 - C. 「召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち」——これは、キリストの中で聖別され、聖とされた召会であって、キリスト（すなわち、手順を経た三一の神の豊満における彼の具体化）をその要素、また範囲としています——2節c。
 - D. 「召された聖徒たち」から成る召会——これは、サタンのこの世から召し出された聖徒たち、聖別された者たちの集まりです——2節d。
 - E. 「それと共に、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ」——この長い句が示しているのは、真の召会とは、主イエス・キリストの御名を地上の至る所で呼び求めているすべての聖徒と関係があるということです——2節e。
 - F. 主イエス・キリストは「彼らのもの、またわたしたちのものです」——これが示していることは、真の召会が主イエス・キリストを「彼らの」分、神聖な嗣業の「彼らの」所有として持っており、それが「彼らの」享受になるということです——2節f。
 - G. 「神であるわたしたちの御父と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように」——これが示しているのは、真の召会が「恵み」（手順を経た三一の神の具体化が彼の召された者たちによって恵みとして享受されること）の分与の下にあるということです。この分与は、神聖な三一の源である父なる神から、神聖な三一の流れの源であ

る主イエス・キリストから、神聖な三一の流れの到達である聖霊（言葉では述べられていないが、意味において暗示されている）から来ます——Ⅱコリント13:14) - Iコリント1:3。

- H. 「キリスト・イエスの中であなたがたに与えられた神の恵みに基づき」——これが示しているのは、真の召会が、キリストの中で与えられた神の恵みをその基礎としているのであって、それ自身における状態をその基礎としているのではないということです——4節。
- I. 「あなたがたがあらゆることで……キリストの中で豊かにされており……こうして、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく」——これが示しているのは、真の召会があらゆることで、キリストの中で豊かにされており、こうして、どんな賜物にも欠けることがないということです。この賜物とは、恵みから生じる内側の初期の賜物であり、永遠の命や聖霊のようなものであって(ローマ6:23. 使徒2:38. ヘブル6:4)、外側の奇跡的な賜物ではありません——Iコリント1:5-7前半。
- J. 「わたしたちの主イエス・キリストの出現を熱心に待ち望んでいます」——これが示しているのは、真の召会が正常なしるしを持つべきであるということであり、それは、わたしたちの主イエス・キリストの出現(現れ)を熱心に待ち望むことです——7節後半。
- K. 「彼(4節の神を指している)も、あなたがたを終わりまで堅固にして、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者としてくださいます」——これが示しているのは、真の召会が初めにおいて恵みを受けた後、(第3章6節で述べられているように)命において成長して、キリストの来臨の日に責められるところのない者にさせていただく必要があるということです——1:8。
- L. 「神は信実です。この方を通して、あなたがたは彼の御子、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの交わりへと召されたのです」——これが示しているのは、真の召会が、信実な父なる神によって召されて、彼の御子イエス・キリスト、すなわち、究極的に完成された、すべてを含む、内住する、命を与える、分与する霊の交わり、あずかることへともたらされ(15:45後半. Ⅱコリント3:17-18)、召会の神聖な分とならせ、究極的に完成された三一の神を享受するというということです——Iコリント1:9。
- II. コリント人への第一の手紙がわたしたちに明らかにしているのは、主の回復の中心点における真の召会、すなわち、穀物のささげ物の召会生活です：

- A. 穀物のささげ物がまず予表しているのは、キリストの神・人の生活と、彼の神・人の生活の複製としてのわたしたちのクリスチャン生活です——レビ2:1-16. 詩92:10. I ペテロ2:21. ローマ8:2-3, 11, 13 :
1. 穀物のささげ物の主要な要素であるきめの細かい小麦粉は、キリストの人性を表徴しており、それはあらゆる面において細やかであり、完全であり、柔和であり、均衡が取れており、正しいものであり、過度や不足がありません。これが表徴しているのは、キリストの人性の生活と日常の歩みとの美しさと卓越性です——レビ2:1. ヨハネ18:38. 19:4, 6後半. ルカ2:40. 23:14. イザヤ53:3。
 2. 穀物のささげ物の油は、キリストの神聖な要素としての神の霊を表徴します——レビ2:1. ルカ1:35. 3:22. 4:18. ヘブル1:9。
 3. 穀物のささげ物の中のきめの細かい小麦粉と油がミングリングされていることが表徴しているのは、キリストの人性が聖霊とミングリングされていることと、彼の人性の性質が神の神聖な性質とミングリングされていて、彼を神・人とならせ、神性と人性を区別して所有させ、第三の性質を生み出さすことがないということです——レビ2:4-5. マタイ1:18, 20。
 4. 穀物のささげ物の中の乳香は、キリストの復活における香ばしいかおりを表徴します。きめの細かい小麦粉に乳香が加えられたことは、キリストの人性が彼の復活の芳香を帯びていることを表徴します——レビ2:1-2. 参照、マタイ2:11. 11:20-30. ルカ10:21 :
 - a. 四福音書に描写されているように、キリストは、彼の神性とミングリングされた彼の人性の中で生活し、彼の苦難の中から復活を表現しました——参照、ヨハネ18:4-8. 19:26-27前半。
 - b. その霊で満たされ、復活で浸透されたキリストの生活は、神に対して満足を与える香ばしいかおりであり、神に安息、平安、喜び、享受、完全な満足を与えました——レビ2:2. ルカ4:1. ヨハネ11:25. マタイ3:17. 17:5。
 5. 穀物のささげ物に味付けした塩は、キリストの死、あるいはキリストの十字架を表徴します。塩の機能は、味付けし、殺菌し、腐敗を防ぐことです——レビ2:13 :
 - a. 主イエスはいつも、塩付けられた生活、十字架の下にある生活をしました——マルコ10:38. ヨハネ12:24. ルカ12:49-50。
 - b. キリストは実際に十字架につけられる前でさえ、日々、十字架につけられた生活をし、自分自身と彼の天然の命を否み、復活の中で御

父の命を生きました——ヨハネ6:38. 7:6, 16-18. 参照、ガラテヤ2:20。

- c. 神の契約の基本的な要因は、十字架、すなわち、キリストの十字架刑であり、それは塩によって表徴されます。十字架によって、神の契約は保たれて、永遠の契約となります——参照、ヘブル13:20。
 6. 穀物のささげ物にパン種がないことが表徴しているのは、キリストの中に罪や何の消極的な事物もないということです——レビ2:4-5, 11前半. II コリント5:21. ヘブル4:15. I ペテロ2:22. ルカ23:14. 参照、I コリント5:6-8。
 7. 穀物のささげ物に蜜がないことが表徴しているのは、キリストの中に天然の愛情や天然の善良さがいないということです——レビ2:11後半. マタイ10:34-39. 12:46-50. マルコ10:18。
 8. もしわたしたちがキリストを穀物のささげ物として食べるなら、わたしたちは食べるものとなり、食べるものによって生きます——ヨハネ6:57, 63. I コリント10:17. ピリピ1:19-21前半。
 9. わたしたちは霊を活用して、御言において具体化されたその霊に触れることによって、イエスの人性の命と生活を食べ、イエスで構成されて、イエスの人性の生活はわたしたちの人性の生活となります——エペソ6:17-18. エレミヤ15:16. ガラテヤ6:17。
- B. キリストの生活とわたしたち個人のクリスチャン生活は、一つの総合計、すなわち、団体の穀物のささげ物としての召会生活を生み出します。穀物のささげ物の召会生活はコリント人への第一の手紙において見ることができます——レビ2:1-2, 4. I コリント12:12, 24. 10:17:
1. キリストは、神によってわたしたちに与えられた人です——1:2, 9, 30。
 2. パウロはコリント人に「男らしくありなさい」(16:13、文字通りの訳)と命じました。それが意味するのは、わたしたちがイエスの高い、引き上げられた人性を持つべきであるということです(9:26-27. 13:4-7)。
 3. 召会生活とは、その霊によって、またその霊をもって油を塗られ、その霊と結合される人性の生活です——2:4, 12. 3:16. 6:17。
 4. 今日わたしたちが享受している神の恵みは、命を与える霊としての復活のキリストです——15:10, 45後半:
 - a. わたしたちは日ごとに自己に対してキリストと共に死ななければなりません。それは、わたしたちが日ごとに神に対してキリストと共に

- に生きることができるためです——31, 36節. ヨハネ12:24-26。
- b. わたしたちは神と一になって、神にわたしたちと同在していただき、召された時の身分にとどまることによって復活の実際を実証しなければなりません—— I コリント7:24, 21-22前半, 10-13。
 - c. わたしたちは天然の命、また天然の能力によって労苦するのではなく、復活の命、また復活の力としての主によって労苦しなければなりません——15:10, 58。
5. わたしたちは十字架につけられたキリストを、召会のすべての問題の解決として享受しなければなりません——1:9, 18, 22-23前半. 参照、マルコ15:31-32前半。
 6. わたしたちはキリストをパン種のない祝宴として享受しなければなりません—— I コリント5:6後半-8。
 7. 召会生活の中で、天然の命は塩によって、キリストの十字架によって殺されなければなりません——15:10, 12:31, 13:8前半. II コリント5:16.
 8. 神は、あらゆる地方召会が穀物のささげ物となって、彼を満足させ、日ごとに聖徒たちに完全な供給を与えることを願っています。これが意味するのは、わたしたちが召会生活を食べるということです。なぜなら、召会生活はわたしたちの日々の供給となるからです。